かわべ

発行
河辺村公民館
編集
館報編集委員会
☎ (089339) 2017
佐川印刷KK
吉田町北小路 ☎2-0600

椎茸ホダ付率の向上をめざし
ホダ場診断を実施

森林組合長　高橋武夫

わが村の椎茸生産は、昭和四十年頃から年々増加の一途をたどっていましたが、ここ数年ようやく安定した感じです。

ただし、原木不足による他町村からの購入は生産原木の高騰を招き、経営はきわめて困難な現状です。

ホダ付率の向上のためには、夏場の椎茸ホダ場の管理が特に大切です。

このたび、きのこセンター及び、県森連指導員による"ホダ場診断"が行われましたので、診断結果をお知らせいたします。

今年の梅雨は雨量も例年の半分以下と少なく、害菌の発生も幾微ですが、通風不良な伏込場所では湿生の害菌（トリコデルマ）の発生が特に多く目につきました。

又、昨年と比較して生産者の出席も良く、椎茸栽培に取り組む姿勢が充分にうかがわれました。

伏込状況をまとめてみると、

巡回個所数～八十三ケ所
参加人員　～一〇一名
使用原木～くぬぎ木四八%、なら三〇%、その他二二%。
林内伏せ～九二・八%
裸地伏せ～七・二%
購入原木～五九・四%
自給原木～四四・六%

これは、小口生産者主体で適期作業を行っている人が四八・二%以上であり、これをみると自給原木使用者が約半数ありながら裸地伏せが少なく、林内伏せに集中していることです。

自給原木使用者は裸地伏せにして欲しいものです。（河辺村全体でみると購入原木七〇～八〇%）

又、適期作業も約半分の生産者しか行っていない現状です。

これでは、良い椎茸ホダ木はできません。

河辺村において今後、椎茸栽培で生き残れる栽培者になるには、今までの「採る椎茸栽培」から手を入れて「作る椎茸栽培」に切り替えなければ、まず無理だと思います。

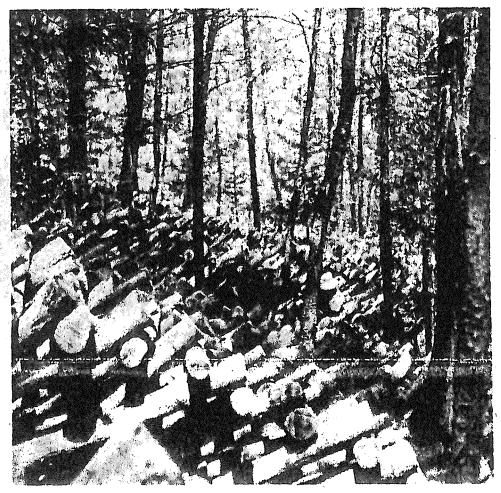
そのためには、(イ)よいホダ木作り。(ロ)ホダ場に合った品種の選定

(ハ)単位当り収量の増加

"生産原価を安くする"ため"以上の三点があげられますが、まず、古ホダから椎茸を採るか、採らないかで決まります。

今後の目標は、現在の植菌量で生産量の増収をはかることで、古ホダから椎茸を一枚でも多く発生させることが一番大切なことです。

（きのこセンター指導員　東　譲二）



「林内伏込み」状況

「裸地伏込み」状況

"いよじ号がやって来た"
―県立図書館の移動文庫―

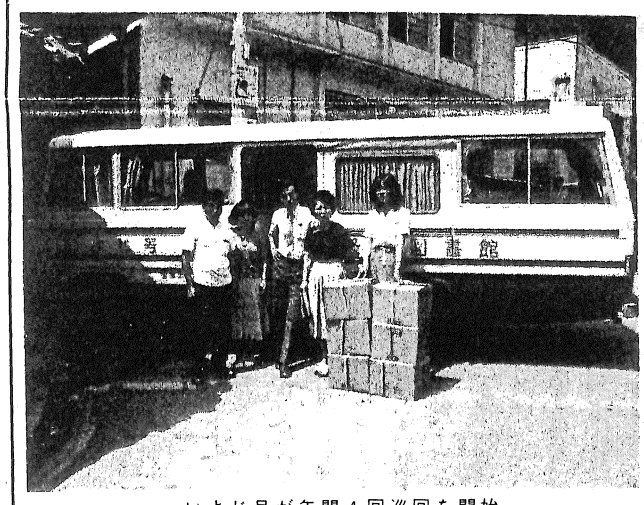
このほど河辺村公民館は、県立図書館から巡回文庫配本駐車場として指定を受け、去る七月十二日に第一回の"いよじ号"が巡回し、地元の読書グループ代表者が出席する中で図書館長より文庫贈与式がおこなわれました。

これは「図書施設に恵まれない地域に対し自動車で巡回をおこない地域の読書活動の振興につとめる」という目的で、県立図書館が館外事業として取りくんでいるものです。

第一回の巡回では三六〇冊余の図書を借り受け、各グループ（大中山の誘輪会、川崎の自治グループ、河辺小PTA、坂本小PTA、北平小PTA・河辺中PTA）配本して現在、貸出しを開始しています。

文庫の分類は哲学・自然科学・文学・大衆文学・小学生用文学・絵本からなっており、皆さんの御利用を待っています。

なお、今後この文庫を身近において利用したい方は、十人程度のグループを作り公民館へ連絡いただくと、一グループ当り約四十冊程度の図書をお手元に届けますので、御希望の方は気がるに申込みください。



いよじ号が年間4回巡回を開始

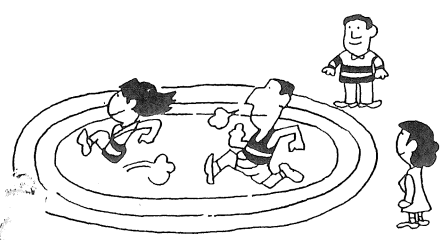
あなたのアイディア
―募集―

十月十日の村民運動会をより楽しい内容にするため、みなさんのアイディアを取り入れたプログラムをつくりたいと思います。

"参加する人も見物する人もおもしろい種目をお待ちしています"

※応募方法
○内容～四日の解説を書いて送ってください。
○宛先～河辺村公民館
○〆切～来る九月二十日迄

○謝礼～採用させていただいた方には粗品を進呈します。



河辺村人口動態
（S.53.8月1日現）

世帯数	613
人口	2,260
男子	1,143
女子	1,117

（S.50.10.国調）

世帯数	666
人口	2,368

（S.45.10.国調）

世帯数	718
人口	2,810

ふるさとに望む

大洲市　谷本一善

「山峡のふるさと偲ぶ蟬時雨」

郷里河辺を離れて十五年、その間、各地を転々として現在の地に居住しております。長い間のご無沙汰を重ねています。

先日、突然公民館報への寄稿の依頼があり、いささか戸惑いを感じましたが、常日頃考えていることをしたためさせていただきます。

何によらず、足元のことは、わかりにくく、とかく周囲のことが、よく目につくものです。ふるさとも、そこに住んでいると、本当のよさ、真の姿を見落すことがあります。私も河辺の地を離れ、年経るにしたがい、ふるさとをなつかしく、ありがたく思え、心の寄りどころとなっています。

「念佛の鐘にひかれて大施餓鬼」

この季節になると、きまって、思い出されます。暑い陽を受けて、各地から三々五々と施餓鬼に集い、幾らかの小遣いをしっかりにぎりしめ、境内に並ぶ出店の間をあれこれと見て歩いた頃、各地から集まった鐘、太鼓を打ち鳴らす大合奏が、山々にこだまして、暑さもいつ忘れてしまいやがて、最高潮に達します。一方、本堂では、重々しい読経が流れ、死者と現世の解逅をかいま見るようで、今でもありありと脳裏から離れません。

「冬空に魔除けのわらじ風に揺れ」

部落の細道の上に張られた一本の綱に結ばれた鬼の金剛、見る人に異様な感じをもたせるが、その昔、病魔が集落へ入り込まないように、人々の願いと祈りをこめて今でも引き継がれていて、うれしく思います。

「長き夜を祖母の話を聞き寝むる」

秋の夜長は、きまって祖母の枕辺に寝て、地方の処々方々に伝わる民話を時の経つのも忘れて聞き入り、いつとはなしに夢路についたものです。

このほかに、虫送り、お大師様など、人から人に受け継がれた行事が多くあると思います。

失われかけた、伝統文化をいつの世までも受け継いで、守っていくことが、今生きている私達の大きな使命であり、義務であると考えます。河辺の地にしかない大切な文化遺産を絶やすことなく継承し、この先人達の足跡を正確に記録に残していただきたいと念願しています。

近年急速に都市化は進み、自然は無残にも破壊され、人の心はすさんでいる社会の中で、かけがえのない心のふるさとを、河辺の地が、最後の砦となって、守り続けていただくよう期待しています。

やねばし

昨年九月、ある老人の方より一通の手紙を頂いた。文面には私は旅をする毎に次の真心の七施を四、五枚持ち歩中や、その他の旅づれにどこの唯かわからぬ人に渡し読んでもらっている。社会の財産はいつかは花の咲くこともあろうエー

真心の七施（無財の七施）

一に、眼施（いつも慈愛をたたえた眼ざしで）。**二に、和顔悦施**（明朗で柔和な顔色で）**三に、言辞施**（礼儀正しく温かい言葉で語り合い）。**四に、身施**（人のためには骨身おします）。**五に、心施**（深い愛情で尊敬の心）。**六に、牀座施**（和やかに席をゆずり合い）。**七に、房舎施**（気安く宿を貸す）。

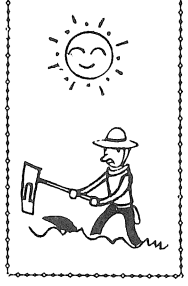
これはお釈迦さまが弟子のまずしい僧に教えられた言葉である。

八幡浜教育事務所長近田先生（現在は大洲市長）が人間が追求する価値を大別すると次の五つに大別されるとー。

1、快楽的価値　2、身体的（外見的）価値　3、経済的価値　4、社会的価値　5、文化的価値

3の経済的価値は人間誰しも追求せざるを得ないものと思うが、戦後の物質的繁栄追求の過程においては1～3の方の価値に重点がおかれ、いかに社会的価値、文化的価値の必要性を説いても、ややもすれば軽視され、無視される傾向にあったと思える。それは無理からぬ事情というものもあったわけだが、さて此の不況の時代、スタグフレーションの時代がやってきた機会にこそ3～5への転換をはかるチャンスだと思う。そうしてこれらの価値のバランスをうまくとり直すことが大きな課題となってきたかと話されたことを思い出します。社会的価値と真心の七施と結びつけてみることはまちがいだろうか。やさしい思いやりの心ある眼ざしで人に接する、つまり人を愛することから考えてみればどうか。ここらあたりで日本美の再発見、歴史を振りかえってみたいものである。"Y"

あすの農作業



栗園の土づくりと省力化のために

―イタリアン草生栽培を―

栗園土壌が浅くてやせ地のところでは樹は短命です。この点、他の果樹に類をみない特徴といえます。しかし、現実には栗の歴史的背景と経済的な面から、他の果樹のように敷ワラや深耕による土壌改良をしていないのが実態です。

栗は土が深く、肥沃な土壌が適するからといって堆肥肥の投入、深耕を今さら呼びかけても、このご時勢では当てはまりませんが、土づくりと省力化をねらいとしてイタリアンライグラスによる草生栽培について紹介しましょう。

一、イタリアンの特性

一年生の禾本科植物で、冬から初夏の飼料作物として栽培されているもので、八月に種子より発芽して、翌年五月頃から六月に急速に繁茂し、七月には枯死します。

草丈は約二mとなり、根群も地下約一mに達するといわれています。採草量も多く、生で五～六tは穫れるということで、根の重量もほぼ等しいということから、稲ワラに換算しますと約四反ワラを投入した計算になるわけです。

二、イタリアン草生の特長

(1)夏草を抑制して収穫が容易。
(2)八月までの草刈りが不要。
(3)地下深くまで肥沃ぼう敷になる。

三、は種量及びは種時期

は種量十アール当り二～三kg、は種時期八～九月中旬

園内の草刈後には種しますが、土地が乾燥してる場合発芽しないことがありますので、乾燥している時は降雨中に種子をまくか、降雨直前直後には種するとよい。

四、肥料

栗用肥料の他にイタリアン用として、高度化成を十アール当り秋肥の時三十kg、春肥の時四十kg程度多く施す必要があります。この際、イタリアンをまいたところを均一に散布します。若木だからと言って輪肥施用すると失敗します。

夏肥は四月下旬に高度化成三～四十kg施し、六月施肥は不要です。

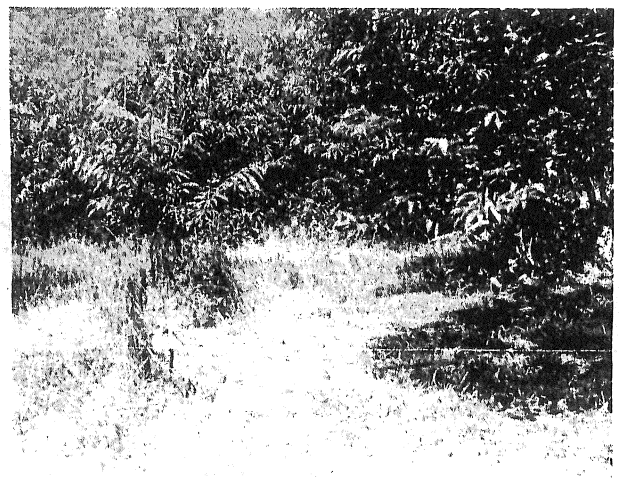
五、注意したいこと。

(1)密植状態では発芽生育しないので間びきする。
(2)イタリアンの生育途中に草刈りしない。
(3)スイバ、カタクリ、彼岸花のあるところは発芽しないので除去しては種する。
(4)イタリアンは肥料要求度が高く、中途半端な施肥は夏草との背くらべとなり、かえって夏場の管理が難しくなります。

以上、イタリアン草生栽培について述べましたが、筆者の経験から栽培一～二年は葉色から見てやや不安ですが、土は肥え生育も収量も除々に向上するように思います。

また、イタリアンの出来如何は牛産のバロメーターとなり、上手に草生栽培を行うならば、省力化、地力増進、生産力向上に役立つものと信じます。

大洲農業改良普及所　小玉　孝誠



恒例の納涼盆おどりにぎわう

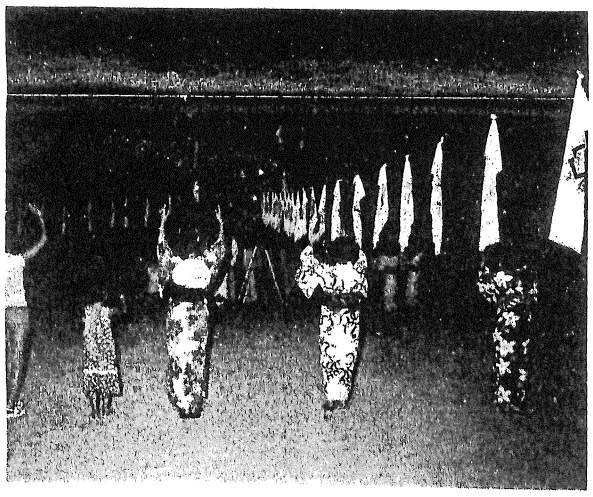
八月十五日、恒例の盆おどり大会が北平小学校と河辺小学校の二ケ所でおこなわれました。

時おりにわか雨が降り心配されましたが、夕方はすっかり晴れ上がり昼間の雨でいっそう涼しさを増し、ゆかた姿の親子づれや都会から帰省した若者がマイカーで集まり、盆おどり始まって以来の人出となりました。

見知らぬ顔が多く自立ち、帰省した若者もぞんぶんに故郷の一夜を楽しんでいたようです。

昔から受け継がれて来た〝扇子おどり〟になると踊り子も少なくなって少々さびしい感じもしましたが、運動会などでおどられている〝花びらばやし〟になると小さい子どもまで輪に入り、また元の二重の輪ができるなど時の経つのも忘れて延々二時間おどり続けました。

九時三十分終了予定だったのを十分延長するほど一夜を楽しみ、全員にタオルが配られると又、来年の再会を約束して別れる光景もそちこちで見られました。



職場訪問記(3)

―郵便局―

サービスと信頼が第一

河辺局を訪ねたのは夏場のカンカン照りつける七月下旬だった。窓は開放され川風が爽やかにほほをなでていく。

整然とした机の配置、静かな雰囲気で、怀局長(和気迪夫氏)に来意を告げると、いとも穏やかな口調で「郵便局はお金を扱う所ですから、信頼とサービスが第一、気安く人々が出入りしてもらって貯金や保険、送金などをおおいに利用していただきたい」と切り出された。

貯金は日歩、年複利

局長「局はよく低利といわれますが、預け日から引出し前日まで日歩で計算、一年が来ると複利計算され高利廻りでよく増えますよ」と。

局長「貯金にも種類が多く積立、定額、普通等、預け入れの将来の計画、便途の向きなどで最も有利に預りますから局員によく相談してもらいたい」と。金額の大小にかかわらず預ける時に相談が必要だ。

遠慮は損、貯金送金は相談で

局長「保険料金でも六ケ月、一年分をまとめて払うと割引きがありますよ」又「最近は貸出しもするようになって進学ローン、建築ローンもできるようになりました」が、規則が余り一般に知られていないので希望者は局員によく相談して欲しい」とのことだった。

急ぐ送金は電報替為で

急ぐ送金は電報替為にすると数時間後に届く、しかし、先方の局で受け取らなければならない。

郵便局は国民のために設けた政府のサービス機関であり責任は政府がもつ、ただし、規則に従わず普通封筒に現金を入れたりすると局は責任をもたない。

急がない送金には小為替、振替等の送金方法があり料金も安いとのこと。

最後に局長は「郵便貯金は大蔵省の資金運用部に入ることになる。全国だから膨大な資金で、この資金は診療所、学校、僻地集会所、水道施設等に資金環元(付債等)されているのですよ」と、われわれ住民も恩恵を受けているとのことだった。

電話が全村ダイヤル化

八月二十三日午後一時から、河辺、北平局の電話がダイヤル式になり、新たに河辺交換局に収容される。

〝市外局番や電話番号が変わるので、相手の番号をよく確かめて〟

市外局番	〇八九
市内局番	三九
加入者番号	全部四ケタ

短歌

耕すも勤なるもありそれぞれの坂を背負いて人ら生きぬく　角藤政千代

遠き世のあゆの鳴る瀬はダム底に深く沈みて静かなりける　関井恵美子

ちりし日の父の喜ぶ手かんを位牌の前に供えて拝む　〃

針の耳窓辺に寄りて糸通す梅雨の晴れ間に光りたよりて　清水　孝

節しるや野辺の七草咲き初めしお盆まじかに墓地そうじする　〃

転作の大豆まきおえ木の陰に休みておれば鳩群れなして来る　中本　文江

ぬば玉の夜にホタル火の点滅は恋をもとめて身をこがすと云　〃

人は縄手は親の縄しかすがにやすくもまるか人をせなるは　上林ヨシ子

帰らなとこと又振りかえる病院の窓辺にいつそり夫の見送る　〃

前かがみにゆし足早に歩みくる夫を面会室の廊下に見て待つ　〃

消息

(自53・5・11 至53・8・10)

(出生)おめでとうございます。
植松　父　治久　宇都宮拓介
川上　〃　富雄　上野　涼子

(結婚)末ながくお幸せに
松本建一(栄)
田村由美(松山市)

(死亡)お悔み申し上げます。
大中山　柿本長太郎(八九才)
神納　関井　〃(八九才)
鴨谷　新　信吉(七一才)
日の平　原　ミチエ(七四才)

農業の出来る河辺に

三久保　小西　弥寿夫

高校を卒業して河辺に帰り、四年余りになりますが、青年団や農業後継者協議会の団体に入って感じることは、活動が次第に下火になっているという現象です。

今の役員がしっかりしていないのも原因ですけど、入団当初の若者が結婚し一つの家庭に納まって、団員が減少していったこともあげられます。

また、マイカーの普及により、大洲、松山へと好きな時に遊びに行けるので、青年団などうまらんと考える人がいるからだと思います。

「昔は、青年団も四十人位いたのに今は少ないなあ・・・」という話をよく耳にしますが、うらやましい話です。

今、若者が家に残って農業をやっている人はごくわずかです。

河辺で生活するには、やはり農業をするには耕作地が必要です。

農業をするには耕作地が必要で、地理的に無理な点も多々ありますが、河辺には耕作地が少なすぎるという悩みがあります。

現在、進んでいる国営パイロット事業を一日も早く完成させ、都会へ出ている人が「河辺に帰って農業をやろう」と思ってもらえるような農業基盤整備が出来ることを待っています。

そして、いつの日か若者でいっぱいの〝河辺村〟にならないものかなあーと、かすかな夢を持っている若者のひとりです。

林業だと思います。しかし、河辺に帰っても農業だけでは食べていけないという理由で、都会へ職を求め出てゆく若者がいるのが残念